



## 新館長ごあいさつ

武政 龍司

「山の斜面で男の人が動けなくなっています」

歴史民俗資料館に着任して数日後、館の受付職員から連絡が入った。後で分かったことだが、ご夫婦で岡豊山に

来られ、花の写真を撮ろうとしていたところ、ご主人が動けなくなり、奥様が受付に助けを求めて来られたとのこと。結局、救急車と消防隊に連絡をとり、病院に搬送してもらった。翌日、奥様が来館され、「脳梗塞で入院

したものの、医師からは、後遺症は残らないと言われている」とのお話を伺い、ほっと一安心。ただ、ベテランの副館長は、「まだまだ体調不良以外にも、ハチャマムシで、救急車の世話になることがあります」と冷静に言う。

どうやら、自然豊かな岡豊山歴史公園で、土佐のまほろばを眺め、四国平定をめぐらした長宗我部元親のたぎる野心に思いを巡らす…、といった悠久のロマンに浸ってばかりもいられないらしい。

平成3年5月に開館した当館は、今年で25周年を迎える。この間、1000を超える企画展の開催や、関連する講演会、ミュージアムトークの実施、あるいは学校教育との連携などにより、約76万5千人の方に来館いただくとともに、収蔵資料は約2万点から14万点余りへと大きく増加した。

また、地域の団体、住民の皆様と力を合わせて、さくらまつり、長宗我部フェス、夏まつりなど多彩なイベントを実施し、地域の盛り上げにも一役

買っている。

これまでご指導をいただいた運営協議会委員、資料収集委員を始め関係の先生方や、支えてくださった地域の皆様、カルチャーサポーターの方々から感謝を申し上げます。

さて、四半世紀が経過した今、私は、館として引き続きいくべきことと、当館を取り巻く情勢の変化に新たに対応すべきこととして、次のとおり考えている。

● 県民等から信頼され、満足していただけの存在に

本県唯一の歴史系総合博物館として、資料の収集保存、調査研究、その成果の展示等による公開や情報発信などをしっかり実践することは何よりの基本である。その中で、県民の皆様、学校、各種団体等からの問合せや相談などの確に応え、頼りにされるとともに、企画展示などもさらに充実させて、「この館があつてよかった」と思っていただけの施設を目指したい。

● 教育との連携

地域の歴史を学ぶことは、自分自身を知り、また、地域の将来を展望することにもつながる。県民の皆様、特に次代を担う若者に、当館に足を運んでいただきたい。そのため、学校や大学などとの連携をさらに密にしていきたいと考えている。

● 地域から愛され、ともに歩む

先に紹介したイベントの例のように、館の活動に理解を示し、応援してください

さる方々がいらつしやることは、当館の最大の財産だと思う。これからも、歴史や文化を通じた地域の活性化のために力を合わせて取り組みたい。

● 歴史観光博覧会への対応

来年、再来年と、高知県をあげて歴史観光博覧会が開催され、当館も地域会場の一つとなつている。この博覧会のコンセプトである、地域の歴史資源に磨きをかけたり、新たな歴史資源を発掘し、地域ならではの食や自然などと組み合わせることで、将来の地域の財産を残していけるよう、南国市や地域の方々と知恵を絞っていきたい。

● 南海トラフ地震への備え

東日本大震災や、先日の熊本地震では尊い命とともに、貴重な文化財も多く失われたことは記憶に新しい。本県でも、必ずやってくる南海トラフ地震対応が急務となつている。当館の建物自体は、耐震構造であり、また、幸い浸水の心配はないものの、展示品や収蔵物の転倒防止、地震が発生した際の来館者への適切な避難誘導の訓練など、準備すべきことは多い。

また、市町村の文化財保護担当部署や文化施設とも連携して、事前の備えや事後の対応などを議論することも重要であろう。

歴史や文化は地域社会の基盤であり、底力となるものである。本県において歴史や文化の発信源となるべき当館の使命は重い。たやすくはないが、当館設置条例の目的に掲げられている「伝統をいかした個性豊かな県民文化の振興に寄与する」よう、少しずつでも歩みを進めたいと考えている。

どうかよろしくお願いいたします。



企画展

# 史 檣

前田博史 天然写真展

2016年7月15日(金)～9月19日(月)祝

心を澄ませる 四国のブナ。

日本列島の中央高地から東北地方、そして北海道にかけて広くブナ林帯が分布しています。西日本の中国地方では、蒜山や大山を中心とする中国山地と西中国山地にブナ林がみられます。九州地方では、霧島山、国見岳の九州山地、阿蘇山、九重火山、英彦山などに主にみられます。

四国では、剣山や石鎚山を結ぶ四国山地にブナ林が分布しています。

この日本の山岳の冷温帯に自生するブナ。その栄養価の高い果実や膨大な量の落ち葉は、森の生き物や様々な木々、可憐な花々を育てます。そんなブナは、ふくよかな森を形成する上では欠かせない樹木であるがゆえに「マザー・ツリー」と呼ばれます。

遙か縄文文化を彷彿とさせるブナ林。この落葉広葉樹林の山は、保水力が大きく、1ヘクタールあたり300トンを越える物質を生産していると言われています。落葉した葉は、有機物を含む土壌をつくり、腐植土は大量の水を溜めることができ、自然のダムとも言えます。(市川健夫「ブナ帯と日本人」1987年) その水は長い時間をかけて流水となり、平野を潤し、海へと流れます。この水は生命の源なのです。

私たち日本人は、山々によって生かされているのです。「涅槃経」などを基盤とした思想に、「山川草木悉皆成



## 写真家 マエダハクシプロフィール

### 撮影テーマ

自然の理力 循環と調和。  
そこに在る気配、空気感、天然の色を真に写し届ける  
風景のメッセンジャー。  
四国山地を軸に、白神山地や、大山・屋久島、土佐湾を撮影。

1961年 高知県高知市に生まれ、現在も在住。  
1986年～自然をテーマに撮影を始める。  
2003～ スコットランドフィンドホーン財団  
2009年 ダイアリー「Tree for life」連続採用。  
2005～ 毎年、当館において写真展 開催。  
2010年 エプソン「ギャラリーエフサイト」にて  
東京写真月間2010写真展 命の起源 開催。＊招待作家  
2016年 「富士フィルムフォトサロン東京」にて写真展 開催。  
「富士フィルムフォトサロン大阪」にて写真展 開催。

### 主な著書

四十万川 水の生いたち・高知山と森の物語（高知新聞社）  
地音 [ジオ] 約束の地（南の風社）【第57回高知県出版文化賞受賞】  
「モネの庭」写真集 / 撮影

### 主な写真掲載先

ナショナル ジオグラフィック 日本版・家庭画報（国際・国内）  
花もよう（高知・愛媛・徳島新聞社）・婦人画報・森の本（角川書店）  
花とみどりのことのは（幻冬社）他シリーズ 水の…自然の…音の…  
月に恋（PHP 研究所）・野田知佑の川遊び学校（小学館 DVD）他

「<sup>カ</sup>仏」という一節があります。山も川も草木も石もすべてに仏性が備わっているという意味です。日本人にとって山は聖地であり、神仏や精霊の住むところでもあったのです。

四国山地に残るブナ林の山々には、古代から信仰された山々があります。人々は、そこには聖なるものが住むと考えたのでしょう。

ブナ林を通して過去から脈々と繋がっている自然と人間や動物の生命の営みを感じてほしいと思います。今回は四国に招来するブナに焦点を当て、その美しい姿や、育成する環境、森を巡る春夏秋冬の装い、その中に流れる命の息吹や木々の香りを通して、四国の森の豊かさを写真で紹介します。最後にインダの詩を記しておきます。

木は 命のある間は、他者のために  
果実を実らせる。

それは 命を失った後でも有用な薪  
として我が身を提供する。

木こそはまさに犠牲の象徴である。  
犠牲という理想に関して、木は最良  
の教師である。（テルグ語の詩）

（岡本）



# 前田博史 天然写真展「企画展」までの軌跡。

自然は、最たる歴史である。人との関わりに思いを馳せ、また想像力を膨らませ、自らの気付きとなる本物の天然写真だからこそ力が存分にある。

1 2005年春、初の試みとして歴史館の休憩室のスペースを用いた「さくらはくら桜博達」を開催して頂きました。前田氏が見惚れて、季節、構図を変え、何年も通い撮影した一本の山桜。「全て一本の山桜を撮影したものです」：展示を見た方々から、「え？同じ桜なの？」、「そういう撮り方があったのか」等と反響があり、それぞれの写真から桜の美を見出して頂ける様な仕掛けの展示となりました。





## 着任のごあいさつ

那須 望

4月より当館に着任しました那須望と申します。生まれも育ちも高知県、生粋のはちきんです。

高校生のとき、日本史の教科書に載っていた奈良県の法隆寺に安置されている国宝・百済観音像に一目惚れしたことをきっかけに、大学では東洋美術史を専攻し、主に仏教彫刻史を専門としてきました。少し前までは、多くの方に珍しいと驚かれましたが、最近では「仏像ガール（または歴女）だね！」と言っていたり、だくようになりました。そのたびに、お寺が葬儀や厄払いの場としてだけでなく、リフレッシュしたり、自分を見つめ直したりする場所として再認識されていることを実感します。

さて、人生の転機となった百済観音像を初めて拝観したのは、大学生の時でした。体軀はほとんど肉付きがなく、異様なまでの細さにもかかわらず妖艶なしなやかさが想像され、経年変化によりはつきりとは拝めないお顔から慈悲深い視線と、口元にわずかに浮かぶ笑みを見つけた瞬間、無条件に自分を肯定してもらったような安心感を得たことを覚えています。今でも百済観音像には特別な思いがあり、1〜2年に

1度は法隆寺へ参じています。

ここまで読んでくださった方は、私を仏教の信仰心に厚い人物だと思われたかもしれませんが、実はそんなことはありません。クリスマスはワインとケーキ、お正月は神社に初詣、お葬式には数珠を持つ典型的な日本人です。

ただ、私自身が百済観音像に出会ったことで進学先を決め、仏教彫刻史を学び、いまここで学芸員としてご挨拶を書かせていただいているように、仏教伝来から約1,500年という長い時間のなかで、人々と仏教が交わることで生まれた小さな物語の積み重ねが、日本の歴史や文化の一部分を育ててきたのだと思っています。

忘れられない恩師の言葉があります。「美術史学という分野は、いまに残された作品と資料を通して、それぞれの時代を生きた人たちと対話をする学問である」。そして、私は、学芸員とは、その対話を皆さまに翻訳する役割を担っているのだと思っています。

少しでも多くの方に「美術っていいな」と思っていただけけるよう、わかりやすい翻訳を心がけて参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

## 着任のごあいさつ

石畑 匡基

この4月より学芸員として奉職しております石畑匡基と申します。高知県出身ではありませんが、高知大学に在学しておりましたので、久しぶりに高知で生活することになりました。南国土佐をあとにして、6年間は九州の大学院で研究を行っており、恥ずかしながらようやく社会人となりました。

これまでは、近世初期に該当する織豊期の政治史を研究しておりました。特に、安芸毛利氏を素材として、その領国支配や権力構造について分析を加えてきました。しかし、当館では近世・近代を担当することになりました。日本近世史の初期から、幕末・維新という後期どころか近代史についても把握する必要があります。いろいろと精進したいと考えています。

高知大学時代は本当に怠惰な学生生活を送っており、史跡の宝庫である高知県にいなながら、ほとんどそれらに行きくことはありませんでした。しかしながら、大学院では諸先生・諸先輩方から種々のご指導（「可愛がり」？）を受け、その姿勢もかなり改まりました。したがって、担当が歴史だからといって、それだけに猪突猛進するのではな

く、歴史民俗資料館という、人文学系の総合館に奉職できた強みを活かし、広い視野に立っていろいろなことに興味を持ちたいと考えています。歴史については言わずもがな、特に精神的に取り組んでいきたいのは、中世・近世城郭への踏査や、江戸時代から続く祭りの見学です。これらは開発の進展や人口減少により10年後も現在同様の姿を残しているかは定かではありません。そのため、休日にはできるだけ家から飛び出して山城へ登ったり、お祭りの見学に行くように心がけたいと思っています。

また、九州では古文書資料の調査・整理に多く携わってきました。高知でも未だ多くの古文書が残されていると考えられますが、「虫がついている」や「わけがわからない」といった理由などで「ゴミ」として処分されているのが現状ではないでしょうか。

古文書は地域の歴史を知るための重要な宝です。皆様のお宅にも、地域のお宝が眠っているかもしれません。お困りの際はどのような些細なことでもかまいませんので、ご相談いただけますと幸いです。

## 考古

### 高知県最古の 禅宗板碑

高知県須崎市野見字蛭子崎に江雲寺があります。江雲寺は現在臨済宗妙心寺派の寺院で禅寺です。この寺の上段墓地に砂岩の自然石を用いた16世紀の板碑があります。大きさは、高さ76cm、最大幅33.5cm、厚さ18.6cmで、左記の文字が刻されています。中央に寺の本尊である地藏種子を月

皆令離苦得安穩樂

永祿九年丙秋

義叟宣公座元  
師 禅

如意珠日

世間之樂及涅槃樂

輪で囲み、下に「永祿九年（一五六六）の年号、中央に「義叟宣公座元 禅師」と刻されています。寺伝によれば江雲寺二世のこととされています。左に「如意珠日」は禅宗で16世紀ころまで用いられたもので吉日という意味です。左右の「皆令涅槃樂」は、妙法蓮華経薬草喻品第五の经文の一部です。



板碑

され、地  
検帳には  
江雲庵と  
みえていま  
す。(岡本)

## 歴史

### 県外からのご質問に 答えて

皆様からの質問に対し、資料や情報を提供して解決に役立てる参考業務を行っております。先日、県外にお住まいの方からご質問が舞い込んできました。「ある商家に残された古文書の差出に『土州大津商会所』とあるが、それはどのような役所か」という質問でした。県内の方ならず高知市大津が思い浮かぶのではないのでしょうか。私も高知の地名辞典を片手に調べてみるものの、そこに「商会所」が設置されたという記述は確認できません。

よくよく調べた結果、それは土佐商会の大津出張所だとわかりました。が大津は大津でも滋賀県の大津でした。土佐商会とは、幕末に富国強兵のため

山内容堂の命により設置された藩外出張所です。長崎を皮切りに各地に設置され、近江商人で著名な近江国大津にも設置されました。土佐藩士を含め、幕末の志士が京都や江戸で活躍したことはよく知られています。県内にいるだけでは出会うことのない土佐藩士の足跡をたどること



差出部分

ができ、良  
い機会とな  
りました。  
(石畑)

## 美術

### 描かれた震災の記憶

幕末明治の土佐を駆け抜けた絵師、金蔵。通称「絵金」と呼ばれ、今もこの地で愛され続けています。絵金の代名詞とも言えるのが、歌舞伎などの物語を大胆な構図とおどろおどろしい表現で描いた芝居絵屏風です。当館でも、8月のコーナー展で深淵神社所蔵の作品をご紹介します。

絵金が描いたとされる《絵本大変記》という画帖があります。いわゆる安政の大地震によって、家屋もろとも押し流す津波、高知城下を襲う火災、炊出しの釜に群がる人々を描き、百人一首にならった風刺的な狂歌が添えられています。本書の冒頭では、「被災した人々を勇気づけ、復興を祈念して笑い飛ばしていたのだ」と制作の意図が説明されています。

来るべき南海トラフ大地震への備えが叫ばれる昨今、先人たちが力強く乗り越



《絵本大変記》  
高知県立図書館蔵

えた震災の記録は、私たちの心に  
より深く響くメッセージであると思  
います。  
(那須)

## 民俗

### 神秘の扉・伝説の扉



神秘の扉

香美市物部町の民俗や伝説を紹介するパンフレットを頂戴しました。香美市定住推進課発行の「神秘の扉」「伝説の扉」です。「扉」とあるように、赤いシールが貼ってあり、封印を破ると物部の風景や暮らし・食文化、踊りやいざなぎ流の情報がびっしり。「神秘」が旧横山村編、「伝説」が旧上葦生村編です。原稿を書いたのは当時香美市の地域おこし協力隊だった矢野恵さんです（現吉井勇記念館学芸員）。当館の資料調査員もお願いしています。普通の観光パンフレットとは異なり、物部の深い所が垣間見える内容になっています。5月28日（土）の史跡巡り「いざなぎ流の里めぐり」では現地をバスで回り、好評でした。（梅野）



伝説の扉



## 第7回 岡豊山さくらまつり

「第7回岡豊山さくらまつり」が、4月2日(土)・3日(日)(10時～16時)の両日開催されました。岡豊山歴史公園は、桜の名所として知られ、開花中の昼食時間帯は駐車場が満車になることもしばしば。本年の「岡豊山さくらまつり」は、2日に中庭イベント広場で「岡豊太鼓」、「もとかか君と踊ろう(岡豊小学校)」、「北陵中学校音楽部」、「ルアナと楽しい仲間たち」、「ポストマン」、「久礼田バレエストレッチクラブ」、「岡豊3B体操かおるクラブ」によるパフォーマンスが催され、ご来場の皆様は食事をとりながら楽しんでいました。「もとかか君クイズラリー」、「岡豊山ガイドツアー」も好評でした。3日は、雨のため残念ながら中庭イベントは中止となりました。近年、さくらまつりの時期に雨が降ることが多くなりました。(総務事業課)



## 第7回 土佐の食1グランプリ

「第7回土佐の食1グランプリ」が、高知市(高知駅南口こうち旅広場)と南国市(岡豊山さくらまつり会場)の二会場で、4月2日(土)・3日(日)(10時～16時)の両日開催されました。この期間中、県道384号線から当館への道路は、一般車輛進入禁止とし、高知駅から高知大学医学部東駐車場経由の当館行バス、高知大学医学部東駐車場から当館行バスが運行されました。2日は4,500人、3日は3,500人が来場。



過去最多のエントリーとなる47メニューから本年度は、1位「しまん豚(四万十市)」、2位「四方竹肉巻きフライ(南国市)」、3位「柚子酢どり(馬路村)」の結果となりました。当館には25店舗が出店しました。「さくらまつり」と「土佐の食1グランプリ」は、南国市・南国市観光協会、そして地域の方々やボランティアにより支えられています。皆様ご協力ありがとうございました。(総務事業課)

# れきみんニュース

## 企画展「いざなぎ流の里・物部」 関連企画大いに賑わう



森安正芳太夫とそのお弟子さんたちによる「御幣切り体験」。定員を超える希望者があり、見学者も多かった。



物部の湖水祭の踊りを民謡部の皆さんと一般参加者が踊った。



土佐民話の会の市原麟一郎さんの民話紙芝居。94才とは思えぬ語り一同感服。

4月29日に開幕した企画展「いざなぎ流の里・物部」の関連企画が5月初旬に連続して開催されました。本展は、香美市物部町の民間信仰「いざなぎ流」と同町の民俗文化を紹介するものですが、関連企画では、いざなぎ流の太夫さんをはじめ物部の方々をお招きして、神楽や踊りの披露、物産販売などを実施して頂きました。

5月3日の開館25周年となる「歴史の日」は、御幣切り体験、湖水祭の踊りの公演、市原麟一郎さんの民話紙芝居、物部の物産販売などを、7日は保存会による「いざなぎ流神楽」公演を、8日は研究フォーラム「いざなぎ流の呪術と神楽」民間宗教者の歴史から考える「」を開催。いざなぎ流も熱心な参加者の方々で賑わいました。(梅野)



5年ぶりに登録文化財の民家でいざなぎ流の神楽を公演。オンザキ様の神楽は神秘的で荘厳な雰囲気。舞神楽では中高生が迫力ある舞を演じ、拍手が続いた。



研究フォーラムでは、小松和彦・斎藤英喜・梅田千尋氏らいざなぎ流や陰陽道の研究者が登壇し、10時から16時半まで、いざなぎ流の歴史に関する研究成果を報告をした。

新刊紹介

高知県立歴史民俗資料館研究紀要第20号

[論文]

「民具収集についての走り書き的覚書

—「高知県」という広がりの中で— …香月洋一郎

[研究ノート]

「南国市久礼田熊野八幡宮の銅戈」 ……森田尚宏

「熊野神社の銅戈をめぐって」 ……岡本桂典

「高知県南国市久礼田熊野神社所蔵銅戈のX線

透過撮影および蛍光X線分析について」 …魚島純一

「企画展「長宗我部遺臣それぞれの選択」の構成

内容を振り返って」 ……野本 亮

[史料紹介]

「竹心遺書」について ……野本 亮

A4判 74頁 700円 (送料300円)

[図録]

発掘された日本列島2016 ……文化庁編

B5版 72頁 1,944円 (送料レターバックライト360円)



研究紀要



発掘された日本列島2016

岡豊山の夏祭り  
2016年8月13日(土)

岡豊風日 (おこうふうじつ) 第94号  
平成28年7月1日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088(866)2211  
FAX 088(866)2110

開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり

観覧料 通常期(通常展)大人(18才以上) 460円・団体(20人以上)360円  
特別展(企画展)通常展示込510円  
団体(20人以上)410円

無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展

前田博史天然写真展 檣史

2016年 7月15日(金)～9月19日(月・祝)

日本の山岳の冷温帯に自生するブナ。その栄養価の高い果実や膨大な量の落ち葉は、森の生き物や様々な木々、可憐な花々を育てます。そんなブナは、ふくよかな森を形成する上では欠かせない樹木であるがゆえに「マザー・ツリー」と呼ばれます。



今回は四国に自生するブナに焦点を当て、その美しい姿や、成育する環境、森を巡る春夏秋冬の装い、その中に流れる命の息吹や木々の香りを通して、四国の森の豊かさを写真で紹介し、人間との深い関わりに注目します。

●講演会「樹の声を聴く、命を紡ぐ」(定員120名)

8月28日(日) 14:00～15:00

●要予約(電話・メールで予約)・観覧券要

講師: 濱田吉成氏(元日本樹木医会副会長)

会場: 多目的ホール(2階)

●講座「前田博史写真教室」

●定員20名 往復ハガキで7月20日(水)までに申込  
(1枚で1名様のみ申込み可・申込多数の場合は抽選)

7月31日(日) 10:00～12:00(予定)

講師: 前田博史氏 会場: 多目的ホール・岡豊山歴史公園

●ミュージアムトーク ●観覧券要

7月17日(日)、8月21日(日)、9月19日(月・祝) 14:00～15:00

コーナー展

深淵神社の芝居絵屏風

8月1日(月)～8月31日(水)

夏のコーナー展は恒例の芝居絵屏風。深淵神社の屏風公開最終年の今年は、いよいよ伝説の屏風が登場!

地元で「開くと必ず雨が降る」という言い伝えとともに継承されてきた「菅原伝授手習鑑車引」などを中心に展示します。



次回予告

特別展 発掘された日本列島2016

11月12日(土)～12月18日(日) 高知会場

文化庁主催の巡回展です。本年度は、東京都江戸東京博物館・滋賀県大津市歴史博物館・秋田県秋田県立博物館・高知県立歴史民俗資料館・福岡県北九州市立自然史・歴史博物館で開催します。北海道出土の縄文岩偶、福岡県出土の弥生の青銅器、京都府出土の家型埴輪、長野県出土の和同開珎銀銭、京都府伏見城跡の金箔瓦などが登場します。中・四国では、高知県のみで開催。

図録は当館受付にて先行販売中。(詳細は左欄)

